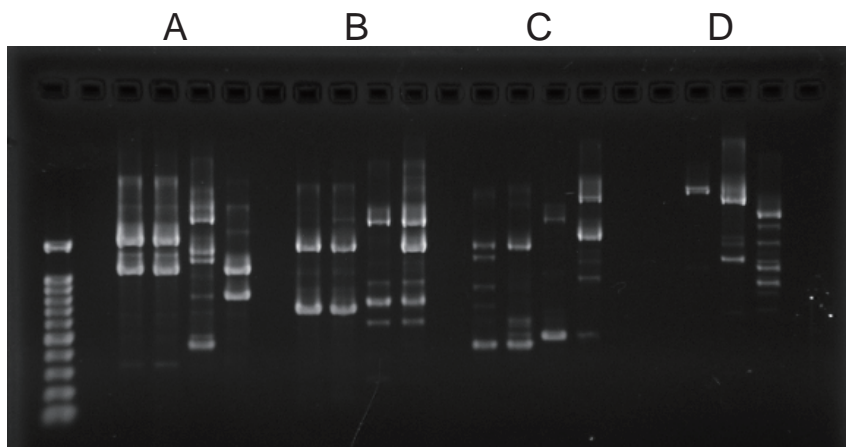


セレウス菌RAPD-PCR用プライマーの検討 — 混入経路の推定に利用できるかも —

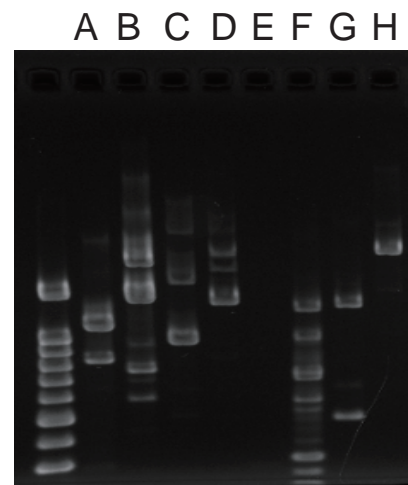
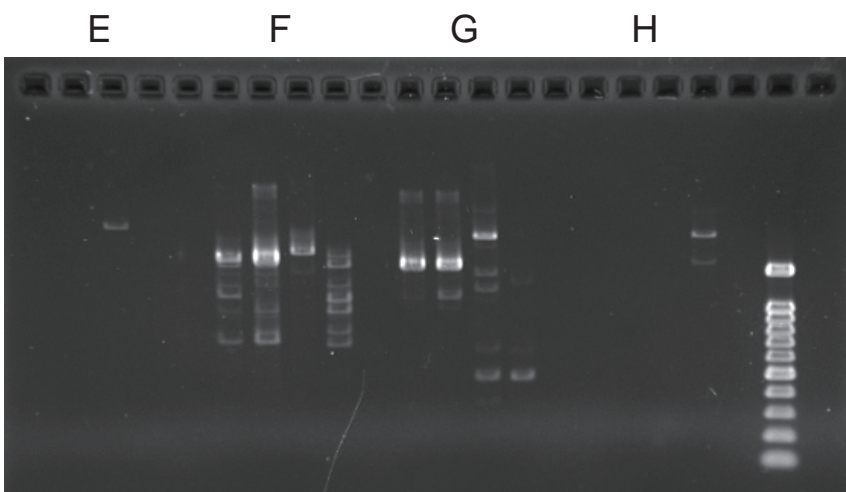
セレウス菌は食品中で毒素を生産することがある。

問題が生じた場合のために混入経路推定法について検討



A: 5'-ATCAGCGCACCA-3'
B: 5'-GCCAGCTGTACG-3'
C: 5'-TGCCTCGCACCA-3'
D: 5'-GCCCCGTTAGCA-3'
E: 5'-CCGCAGTTAGAT-3'
F: 5'-ACTGGCCGAGGG-3'
G: 5'-TTCGGACGAATA-3'
H: 5'-AGAATTGGACGA-3'

Kuwana et al. Biocontrol. Sci.
17(3) 83-86 (2012)



① 豆腐から分離した嘔吐毒遺伝子保有株と下痢毒生産株
2株ずつから総DNAを抽出し、RAPD-PCR反応を行った。
得られた反応物を1.5%アガロースゲルで電気泳動した。

② 豆腐から分離した別の
嘔吐毒遺伝子保有株の
RAPD-PCR結果

推定汚染源由来株と混入株の同一性を迅速かつ容易に確認できる可能性

利用上の注意点

この方法でセレウス菌の毒素生産性を判定することはできない



農研機構
食品研究部門

代表研究者: 稲津 康弘
所 属: 食品安全研究領域
食品衛生ユニット